

# act 10

art, culture, tradition

[発行] 札幌市教育文化会館  
アクト


AUGUST 2012



コミュニティダンス

# Community Dance

# 誰もが振付家。 誰もがダンサー。



コミュニティという言葉は知っている。ダンスという言葉も知っている。でもそのふたつがくっくっくど?イギリスで盛んになり、日本にも伝わってきたコミュニティダンス。決まった振り付けもなければ、決まったリズムもない。跳躍力や手足の長さ、年齢も関係なく踊ってしまうというこのダンス。そんな踊りがあるの?と考えてしまうけれど、答えは意外と簡単。その場に集まった人が、今できるダンスを自分たちで作りだせばいいんです。

たとえばプロの舞台なら、群舞は一条乱れず踊るところを、コミュニティダンスではひとりひとりの動きの違いを「それ、おもしろいね!」とどんどん取り入れていく。なにができて上がるか、予想もつかないワクワク感がそこにはあります。

そもそも、からだひとつあれば始められるのが、ダンスというもの。プロにばかり任せておくのはもったいない。誰もが振付家に、誰もがダンサーになれるコミュニティダンス、ちょっとのぞいてみませんか。

平成22年度 ワークショップ&発表公演

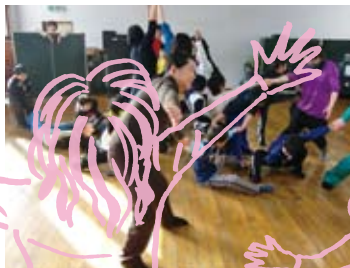


『ふれる・むすぶ・つながる』

あくしゅ、赤い糸、てがみ。3つのダンスから生まれた作品。  
ワークショップの最中に東日本大震災が発生。人と人の絆への想いが深まり、  
それが参加者の身体に溢れた力強い作品となった。

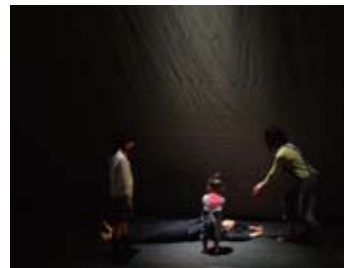
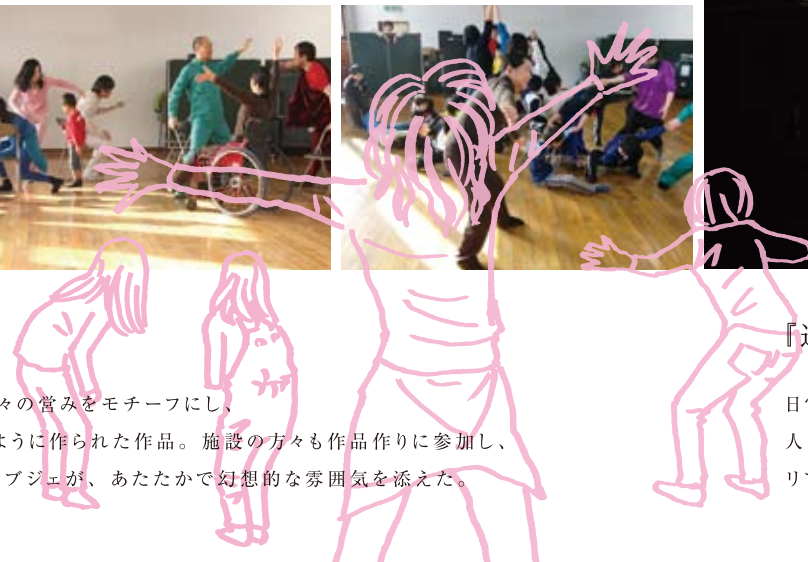


共同学童保育所「えぞりすクラブ」でのアウトリーチ ワークショップ&公演



『あしあと』

遊びや子ども時代の思い出、日々の営みをモチーフにし、  
人生の「あしあと」をそっと残すように作られた作品。施設の方々も作品作りに参加し、  
子どもたちが作ったおもちゃのオブジェが、あたたかで幻想的な雰囲気を添えた。

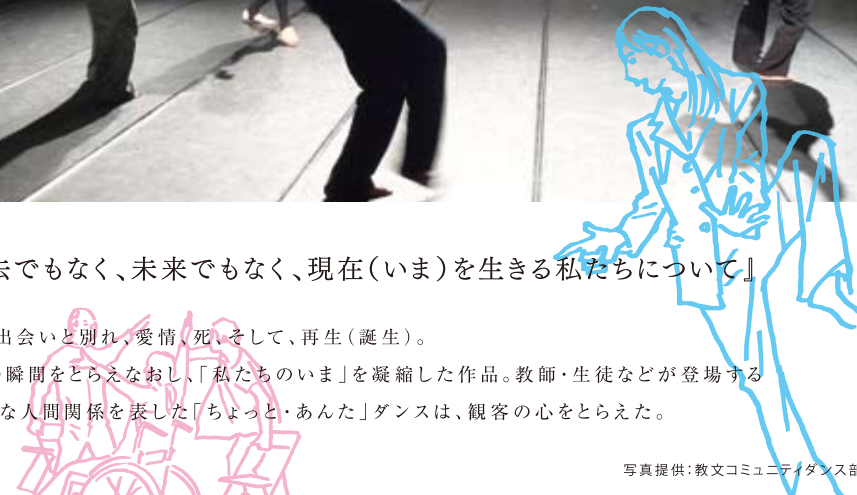


JCDN「踊りに行くぜ!!」Ⅱ(セカンド) vol.1.2 札幌ワークインプログレス公演



『過去でもなく、未来でもなく、現在(いま)を生きる私たちについて』

日常、出会いと別れ、愛情、死、そして、再生(誕生)。  
人生の瞬間をどらえなおし、「私たちのいま」を凝縮した作品。教師・生徒などが登場する  
リアルな人間関係を表した「ちょっと・あんた」ダンスは、観客の心をとらえた。



教文大使 コネ・クートくんの  
なんでも質問コーナー

# コミュニティダンスのこと、 きいてみよう!

市民と芸術をつなごう!と日々がんばる  
教文大使のコネ・クートくん。  
今回はコミュニティダンスについてもっと知りたいな!  
ということで、  
教文のモノシリ博士に質問してみました。

**1**  
Q コミュニティダンスってなに?

A ひとことで言うと、参加型のダンスのこと。  
プロがつくるステージや習い事のダンスとは  
ちょっと違って、コミュニティダンスは、  
年齢も性別も職業も関係なく、  
みんな楽しく踊るものなんだ。



誰でも  
踊ることが  
できるんだよ。

コネ・クートくん  
designed by ロケットデザイン

モノシリ博士

モノシリ博士のコミュダン ミニ知識

## コミュニティダンスのルーツ! イギリスの場合。

誰もが参加し、ダンスを創造することができるコミュニティダンス。これは「ダンス・フォー・オール」(みんなのためのダンス)を提唱しているイギリスが中心になって盛り上げてきたものなんだ。コミュニティダンスは1960年代、カウンターカルチャー(※)から始まったダンスだけど、広く普及し始めたのは1990年代から。当時、イギリスでは貧富の格差が広がり、医療・教育の荒廃、失業者の増加など様々な問題を抱えていた。そこでイギリス政府は「コミュニティの再生」などを重要視した政策

を打ち出したんだけど、コミュニティダンスはその政策にぴったりあてはまっていたわけだ。コミュニティダンスに特化した組織が生まれ、助成金などの制度が整えられることによって、コミュニティダンスは教育や医療にも取り入れられるようになった。たとえば、うつ病や肥満の患者に対して、お医者さんが処方箋を出す代わりにダンスのクラスを勧めたりね。コミュニティダンスにはまだまだ可能性がある!と思われていて、日本にも導入されてきたんだよ。

※)カウンターカルチャー 主流の文化に対抗する文化のこと。1960年代イギリスのカウンターカルチャーの代表としてビートルズなどのロック音楽が挙げられる。

**2**  
Q たとえばどんなダンスなの?

A 大人も子どもも楽しめるフォークダンスや盆踊り、民族的な踊りもそうだね。最近のものだとクラブやダンスホールでの踊りも含まれるけど、人と人をつなぐりを大切に「コミュニティダンス」に注目が集まって、新しいムーブメントが起こっているんだ。



**3**  
Q 新しいムーブメント?

A そう。ダンスの自由形とも言えるコンテンポラリーダンスと合体した、新しいコミュニティダンスが広がっているんだ。コミュニティの大切さをより強く必要としている現代社会では、誰もが参加できるこのダンスへの人気が高まりつつあるんだ。



**4**  
Q これまでのダンスとどう違うの?

A 決まった型のないコンテンポラリーダンスを取り入れて、それぞれの個性を大事にするから「誰でも踊れる」んだ。今までダンスと関係の薄かったシニアの方や車椅子の方、主婦・サラリーマンもみんな一緒になって創作できるんだよ。



**5**  
Q どんなところが楽しいの?

A とにかく気軽に始められること。一番に求められるのは、ダンスの技術じゃないからね。それに、ふだん出会うことのない人たちといっしょにオリジナル作品をつくるわくわく感かな。



**6**  
Q つくる過程がおもしろいんだ!

A そのとおり。ダンスに限らず自分の個性を發揮できるし、なにがで上がるかわからないおもしろさがあるから、全国でいろんなコミュニティダンスのグループが生まれているんだ。



**7**  
Q どうしたら参加できるの?

A まずは身近なコミュニティダンスのグループを探してみよう。ファシリテーターという、みんなの個性や表現力を引き出す役目の人がいてアドバイスをしてくれるよ。



## Interview [インタビュー/ダンサー: 櫻井ひろ]

### 自分が変わるといより、広がっていく。そんなダンスです。

平成22年から発足した教文コミュニティダンス部。その発起人であるダンサー・櫻井ひろさんに北海道で進行中のコミュニティダンスの活動や魅力について聞きました。

コミュニティダンス部をつくったきっかけは?

平成20年に教文で行われた、リズ・ラーマンという方のコミュニティダンスのワークショップに参加したんです。そこには、ダンススタジオの先生もいれば、主婦や保育士、シニアの方や蟹唾者の方も参加されていて、いろんな人に会えたんです。違うジャンルの人たちが集まって楽しくダンスができたので、このまま解散するのはもったいないと思い、み

んなに声をかけたのが始まりです。

どんな活動をしていますか?

月に1回、誰でも参加できる定期ワークショップを開いて、そこでできた小作品をつなげて年に1度の発表会の作品として仕上げていきます。ほかにも老人ホームや学童保育施設にアウトリーチに出かけたり、合宿をして作品を作ったり、インにアウトに活動しています。

実際、どんなふうにダンスを作りますか?

たとえば「夜明けのダンス」というテーマを決めて、目が覚めたときのポーズを1人3つ作っていきます。アクビする人、歯をみがく人、もういちど寝なおす人(笑)。朝の動作って人それぞれ違いますよね。そんな違いがまずおもしろいんですが、そこから一人ひとつに絞って、3人1組になって、ポーズがつながるように流れをつくってみる。それに音楽がついて動きとあわせていけば、これでひとつのモチーフができ上がりますよね。こんな風にいくつもモチーフを作って、つないだり伸ばしたり削ったりして、ひとつの作品をつくっていきます。ワークショップをどうやっていくかということや、動きのつなぎ方はダンス経験者じゃないとわからないので、経験者がファシリテーター、誘導する人になってすすめていきます。

コミュニティダンスの魅力とは?

人によって出てくる表現がぜんぜん違うので、ほん

とうにおもしろい。コミュニティダンスは普通のダンスレッスンとは真逆で、動きがそろわない部分やそれぞれの個性を伸ばして作品にするんです。普通のダンスも作るものと同じかもしれないけれど、過程がちがうんですね。違う自分になるんじゃないかと、自分が広がっていく感じ。それをみんなで作っていく楽しさを、ぜひたくさんの人に体験してもらいたいと思います。



PROFILE  
櫻井 ひろ  
サクライ ヒロ

ダンサー。23歳からダンスを始め、イタリア、フランスで竹之内淳志氏に舞踏を学ぶ。教文コミュニティダンス部主宰、ダンスファシリテーター。

## 教文コミュニティダンス部

札幌市教育文化会館の事業としてリズ・ラーマンのワークショップのメンバーから立ち上がったコミュニティ。決まったメンバーだけではなく自由参加の出会いの場でもあります。

[教文コミュニティダンス部のブログ]  
<http://communitydance.blog.fc2.com/>

### 定例ワークショップ

毎月1回程度、教文にて参加無料のワークショップを開催しています。また、ワークショップ前日におこなうファシリテーターの育成のための打ち合わせ・リハーサルにも参加できます。

次回開催: 8月26日(日)  
教文コミュニティダンス部ブログで随時お知らせします。

### 発表会

1年間のワークショップで生まれたダンスをひとつの作品にまとめあげ、発表します。2012年はJCDN(ジャパンコンテンポラリーダンスネットワーク)主催のコンテンポラリーダンスの舞台「踊りに行くぜ!!!」II(セカンド)vol.2札幌公演でも上演しました。

次回開催: 平成25年1月を予定

### シンポジウム

毎年、札幌以外の地域で芸術によるコミュニティの活性化に携わる人たちを招いてコミュニティダンスについて話し合い、成果を発表するためのシンポジウムを開いています。

次回開催: 平成25年2月16日(土)・17日(日)